

◆ 平成30年度活動報告シート ◆

団体名：NPO法人 エンハンスネイチャー荒川・江川

21A-39

代表者：理事長 小川早枝子

URL :

1. 活動が必要とされた状況

私達の活動地荒川の支流「江川」には荒川の代表的な自然が残っています。この自然のなかでも代表的なサクラソウを増殖して荒川中流域に広げています。

荒川中流域には400ヘクタールの荒川太郎右衛門自然再生地があり協議会で自然再生に取り組んでいますが、過去の膨大な埋め立てによって自然は壊滅的であることがわかりました。そこで江川に自生しているノウルシ、サクラソウ、チョウジソウ、ノハナショウブなどの荒川を代表する植物を増殖して荒川太郎右衛門自然再生地に移植する計画を立て、現在サクラソウの増殖を行っています。30年間江川の自然再生に取り組んできた成果と喜んでいきます。



2. 活動の内容（実施時期、参加人数、活動内容など）

毎日曜日と水曜日の午前中に維持管理活動を行っています。ただし昨年の夏期は高温のために7月と8月はほとんど作業を行うことができず、オオブタクサ等の外来種抜き作業の継続が危ぶまれましたが早朝作業等で最低限の管理を行うことができました。

また、ノハナショウブ、コオニユリなどは自生適地を模索して、新たな群落を何カ所か作りました。

近隣の領家工業団地が立ち上げた「領工会 ものづくり協議会環境部会」が私達の活動の支援に立ち上がってくれました。また「上尾市領家町づくり協議会」もサクラソウトラストにおける維持管理活動への参画を申し出ています。

毎月延べ30～40名のボランティア参加があり、領工会やグローバルコーティング社等の協力で100名以上の新たな担い手が誕生しました。

3. 活動の成果

今年度も厳しい気象状況のなかでこれまで通りの維持管理活動を全て終わらせることができました。夏から外来種駆除、夏開花の植物の新たな適地への移植作業、秋のヨシ刈りと草運び、水田んぼづくりと全てが順調に行うことができ、4月のサクラソウ観察にはすでに3団体の参加申し込みがあり地道な努力の成果と、評価したいと話合っています。

4. 今後に残された課題

これからも従来通り市民参加で活動を継続するつもりですが、高齢化少子化の社会でボランティア活動の継続は徐々に難しくなっているのが現状です。そうした状況のなかで近隣の工業団地有志による新たな活動がおり、さらに地元住民の参画も期待されるので自然再生の活動が未来へと受け継がれるものと期待しております。そのための労は惜しまず進んでいく所存です。

また国土交通省による荒川中流域のエコロジカルネットワークの推進にも大いに期待して協力は惜しまない覚悟です。